

## モーリシャス豆知識・小話 第16号

2018年8月

在モーリシャス日本国大使館

### (1) モーリシャスとインドの切っても切れない関係



私の住んでいるフェニックスには大きなインド文化センター(インディラ・ガンジーセンター)があり、その横に2018年、世界ヒンズー会議事務局ができました。ここで先般世界ヒンズー会議が開催され、世界中のインド・ディアスポラ代表数千人が集結。インドからも外務大臣が出席されたようです。

モーリシャスではヒンズー系が人口の7割を越えるとはよく言われることですが、あらためてインドとの絆の強さを感じた次第です。インド政府はインド・ディアスポラに対し特別な地位を与えているようで、私も先般当地インド系であるPIO(Person of Indian Origin)にインド政府が発行しているパスポート(Overseas Citizenship of India)を見せてもらいました。これがあると海外のインド系の人達はインドに自由に出入りでき、選挙権等一部の制限を除きほぼインド人と同等の権利を享受できるそうです。ただこれも、当国に移民した人から数えて4代目まで、また移民した当時の先祖の記録がきちんと残っている人でないともらえないようです。

当地を訪れるインド人も、当地に残るインドの習慣や風俗に、まるでインドにいるようだとの感想を持つ人が多いわけですが、その一方で、当地の中国系モーリシャス人は約12,000人、人口の1割を切るくらいにまで落ち込んでおり、いつかは消滅してしまうのではないかとの新聞報道もありました。

モーリシャスはこれからもマルチ・エスニックの国として、特に海外からの観光客を魅了し続ける国であるのは確かでしょうが、同国の人種構成、民族構成、更にインドとの関係が今後どう変わっていくのか、あるいは変わらないのか、大変興味深いところです。

## (2) 日モーリシャス外交関係の活発化



佐藤外務副大臣とラチュミナライドゥ外務大臣



気象レーダーサイトを視察した逢沢議員

8月は日本から政治家2名が来訪されました。同じ週に重なったことから、人手不足の当館はその受入れにてんてこ舞いでしたが、大統領や首相を始めとする当国のトップリーダー達と忌憚ない意見交換をしてもらい、その苦労も報われたと思います。

日本からの要人、あるいは企業関係者を受け入れていつも感じるのは、やはりモーリシャスについての情報が日本人にはまだまだ不足しているのだなあとということ。皆さんここに来て初めて、ここはアフリカ一般とは違うぞ、小さい国だけどもきわめて特異なポテンシャルを持っているぞ、日本との関係拡大の余地は大きいぞ、ということに気づかれるようです。

モーリシャス側もそうした日本の要人とのやり取りを通じて、両国間の経済や文化、人的交流等、様々な分野での関係強化を期待しています。実際、モーリシャス側も、例えば来月9月の日本での観光フェアにモーリシャス観光促進協会(MTPA)が参加し、10月に東京で開催されるアフリカ開発会議(TICAD)閣僚会合にはラチュミナライドゥ外相が出席される予定です。

こうした政府レベルでの交流が活発化、当館の果たすべき役割もどんどん大きくなっていく中、ますます頑張らねばと、館員一同で気合いを入れているところです。政治や経済、文化を通じた交流が更なる二国間関係強化・拡大につながっていくことを期待したいと思います。